

諮問のポイント：概要版

初等中等教育における 教育課程の基準等の 在り方について

(令和6年12月25日中央教育審議会諮問)



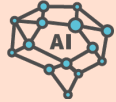
検討においてどのような前提があるか

これからの社会

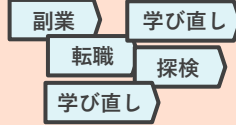
少子高齢化



生成AI等
デジタル
技術の発展



マルチステージ
の人生



テクノロジー
によるチャンス



グローバル化



子供たちにとって重要なこと



自らの人生を
舵取りする力を
身につけること

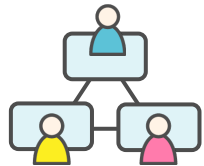


持続可能な
社会の創り手
となること



豊かな可能性
を开花できる
こと

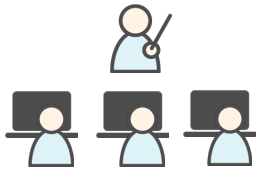
現行の学習指導要領が実現しようとしていること



現行学習指導要領は、「社会に開かれた教育課程」を理念に掲げ、「何ができるようになるか」を明確化／「どのように学ぶか」の重要性を強調。「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を提示

質の高い教師の努力と熱意に 支えられ生まれた成果

精力的な授業改善



全国の学校は、コロナによる制約に苦しみながらも、GIGAスクール構想による1人1台端末環境も活用し、精力的な授業改善を行ってきた

地域間格差・学力格差の改善



全国学力・学習状況調査やOECDのPISA調査において地域間格差・学力格差の改善も見られている

子供一人ひとりに目を向けた時に見えてきた課題

多様性を包摂し、可能性を开花させる教育の必要性

-小学校35人学級における子供の多様性*-



学習指導要領の理念や趣旨の浸透

概念としての知識の習得や深い意味理解をすること、自律的に学ぶ自信がある生徒が少ないこと等に課題

デジタルを活用した効果的な学び

「デジタルの力でリアルな学びを支える」というバランス感覚の下、デジタル人材育成強化は喫緊の課題

*各種調査に基づく出現率から算出

これまでのよい部分を継承し、課題を乗り越え、高等教育との接続改善や国際的な潮流にも配慮しながら、新たな時代にふさわしい在り方を構築する必要性

教育課程の実施に伴う教師の負担への指摘に真摯に向き合う必要性

どのような論点について検討するのか

1 質の高い授業づくりに直結する 分かりやすい学習指導要領にするには



各教科等の中核的な概念等が
分かりやすい構造化の方策

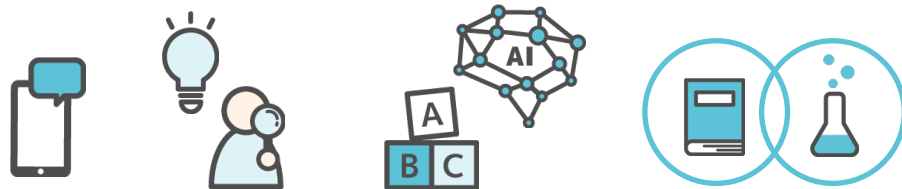
表形式やデジタル
を活用した示し方

重要な理念の関係
性の整理のし方

デジタル学習基盤を前提とした
資質・能力の示し方

学習評価の在り方

3 教科等において改訂すべき点は何か



情報活用能力育成の
抜本的充実を図る方策

質の高い探究的な
学びの在り方

文理横断・文理融合の
観点からの改善の在り方

生成AIの活用を含む今後の
外国語教育の在り方

教育基本法、学校教育法等に加え、こども
基本法の趣旨も踏まえた主体的に社会
参画するための教育の改善の在り方

高等学校教育の
改善の在り方

質の高い特別支援教
育の在り方

幼児教育と小学校教
育との円滑な接続の
改善の在り方

2 多様な子供たちを包摂する、教育課程の柔軟な対応とは



子供による学びの自己調整
と教師の指導性の在り方

教師に「余白」を生み、教育の質の可能性の向
上に資する可能性も含めた、子供たちが輝く柔
軟な教育課程編成の促進の在り方

全日制・定時制・通信制を
含めた高等学校の諸制度の
改善の在り方

不登校児童生徒や特定分野に特異な才能のある
児童生徒を包摂する教育課程上の特例の在り方

4 過度な負担を生じさせずに趣旨を実現するには



学習指導要領や解説、教科書、入学者選抜、教師用指導書も含めた授業作りの
実態等を全体として捉えた上での、教育課程の実施に伴う過度な負担や負担感
が生じにくい在り方

教科書の内容や分量、
デジタル教科書の在り方

現在以上に増加させないことを前提
とした年間の標準総授業時数の在り方

教育委員会への支援強化、指導主事
等の資質・能力の向上の在り方

情報技術など変化の激しい分野で
最新の教育内容を扱うことを可能
とするための方策

学習指導要領の趣旨・内容について、
社会全体に浸透を促す方法の在り方

地域や家庭との連携・協働を促進し
つつ、カリキュラム・マネジメント
を実質化する方策



文部科学省ホームページ

初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について（諮問）

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/mext_00003.html